

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 54
2020.10

TOPICS

1

2019年ノーベル化学賞受賞者の吉野彰・旭化成株式会社 名誉フェローに名誉博士号を授与し、特別講演会を開催



10月22日、2019年ノーベル化学賞受賞者の吉野彰・旭化成株式会社名誉フェローに、岡山大学名誉博士号を授与し、特別講演会を開催しました。

授与式では、榎野博史学長が吉野名誉フェローに名誉博士記を授与。講演会では、吉野名誉フェローの生い立ちやリチウムイオン電池開発までの研究の軌跡をご紹介いただいたほか、サステナブルな社会の実現に向け、さまざまな課題を解決する社会像が提示されました。本学学生に向け、「研究して壁にぶつかることは必ずありますが、壁を越えるたびにゴールに近づくことができます。能天気さを特効薬にして頑張ってください」とエールをいただきました。本講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場への来場者数を絞ってオンラインでの同時開催とし、本学学生・教職員計約800人が参加登録・聴講しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9732.html



TOPICS

2

内閣府「国立大学イノベーション創出環境強化事業」に採択 イノベーションエコシステムの構築を加速

本学は10月19日、内閣府の令和2年度「国立大学イノベーション創出環境強化事業」の重点支援類型③において、順位1位で採択されました。

本事業は、国立大学の外部資金獲得実績などに応じたインセンティブとなる資金を配分することで、国立大学における民間企業との共同研究における適切な間接経費の確保や寄附金等の多様な民間資金獲得を推進し、イノベーションの創出に必要な財源確保を進め、大学の経営基盤の強化を促すことを目的として公募された事業です。

本学はこれまでの制度改革や民間資金獲得実績などを基に、今後、イノベーション創出を連続的に生み出すイノベーションエコシステムの環境整備を加速するとともに、本学自身がこれまで気がつかなかった大学の価値を収益に転換する取組などを実施する計画を策定。その結果、本事業の採択に至り、本年度は5億円の交付金が配分される予定です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9724.html



Pick up!

岡山大学初のネーミングライツ・パートナー契約を、 オージー技研株式会社・株式会社岡山村田製作所と締結



本学は9月11日、オージー技研株式会社、株式会社岡山村田製作所の両社とネーミングライツ・パートナー契約を締結しました。本学がネーミングライツ・パートナーに関する契約を締結するのは初めてのことです。

「中央図書館1階ラーニングコモンズ、リフレッシュスペース」にはオージー技研株式会社により『OG Wellness SALON』、「中央図書館2階サルトフロresta、ヒョセルーム」には株式会社岡山村田製作所により、それぞれ『ムラタアカデミア、ムラタスクエア』という愛称が付され、各施設に愛称のサイン等を設置しました。契約期間は令和2年10月1日から令和5年9月30日の3年間です。

この愛称が本学各施設の魅力向上となるよう、本学学生、教職員、また地域の方々にも広く浸透させていきたいと考えています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9663.html



TOPICS

3

令和2年度秋季岡山大学入学式、大学院入学式を挙行

10月1日、秋季入学式を創立五十周年記念館で行い、新たに入学したグローバル・ディスカバリー・プログラム学生26人と大学院生83人が大学生活へのスタートを切りました。

榎野博史学長は式辞で「今日、皆さんは新たな入り口に立っています。一步踏み出して、新しい道を切り開くことに挑戦しましょう」と新入生を激励。新入生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムの野村夢子さんが「世界はグローバル化し、私たちはお互いの違いを尊び、理解し合っていく必要があります。私たちは、個々人が成長し、知識と自立性を身につけるとともに、それぞれが持つ違いにより排除されることのない社会を作っていくよう、共に取り組んでいきます。この理想と個々人の目標に到達するため、私たち新入生は一生懸命勉学に励み、輝かしい未来を築き上げることをここに誓います」と宣誓しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9671.html



TOPICS

4

フランスのタラ オセアン (Tara Océan) 財団が来学し、榎野学長を表敬訪問



10月14日、タラ オセアン財団のパトゥイエ由美子事務長と筑波大学のAgostini Sylvain助教らが本学を訪れ、榎野博史学長を表敬訪問しました。

この度は、タラ オセアン財団とJAMBIO (Japanese Association for Marine Biology; World Association of Marine Stations)のメンバーで、本学理学部附属臨海実験所の坂本竜哉所長が4運営委員の1人が共同で、日本沿岸のマイクロプラスチックの調査を、同臨海実験所を皮切りに開始するにあたり、その広報活動を兼ねて訪問が決まりました。

表敬に先立ち、財団が推進するマイクロプラスチックの海洋調査に関するポスターを本学構内のJテラス、本部棟に展示しました。

訪問では、榎野学長、那須保友理事(研究担当)・副学長、横井篤文副学長(特命(海外戦略)担当)・ユネスコチェアホルダー(UNESCO Chairholder)、木村邦生副学長(国際担当)、同臨海実験所の坂本所長、濱田麻友子助教が、今回のタラ-JAMBIO海洋調査と今後の交流及び協力関係について意見を交換しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9705.html

PRESS
RELEASE筋萎縮性側索硬化症(ALS)を新しい幹細胞で治療する！
～ALSモデルマウスにおけるヒトMuse細胞静注療法の治療効果～

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(医)の阿部康二教授と山下徹講師、東北大学大学院医学系研究科の出澤真理教授の共同研究グループは、筋萎縮性側索硬化症(ALS)モデルマウスにヒト骨髄由来Muse細胞を経静脈的に投与すると、運動機能などにおいて症状進行抑制効果があることを発見しました。これらの研究成果は10月13日、英国科学誌「Scientific Reports」のResearch Articleとして掲載されました。

ALSでは脳脊髄にある運動神経細胞が減少し続けて運動麻痺が進行する神経難病であり、根本的治療がないのが現状です。今回、ヒト骨髄由来Muse細胞を経静脈的に反復投与すると、マウス脊髄(特にこのモデルで傷害の強い腰髄)に遊走し、脊髄を構成する細胞に分化し、運動神経細胞脱落や運動機能低下を抑制する治療効果を確認することができました。本研究成果は、進行する運動麻痺や呼吸筋麻痺に苦しむALS患者を救う新たな治療法開発につながることを期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id777.html

